



ゲイトウェイ2 *Beyond the Blue Event Horizon* (1980) フレデリック・ボール (矢野徹訳) 早川書房 (7/31刊・¥1600)

フレデリック・ボールの代表作『ゲイトウェイ』の続篇である。

ヒーラーと呼ばれる太古の種族の残した、星々への門「ゲイトウェイ」と、未来の地球の有様を描いた前作を受け、今度の作品では、そのヒーラーたちの謎がいくつか解き明かされる。わけのわからない冒頭部と、主に三つの場面が入れかわりながら進む展開は、『ゲイトウェイ』の混沌とした社会と、重ね合わせることもできる。が、それもつかの間で、三本の流れはすぐに収斂し、結末にむかって一直線に流れていく。だから、読みやすさは今回の方が上だ。一気に読み終わられ、深読みも要しない。どちらがよいか、となると、やはり前作の考え抜かれた構成を取りたい。けれども、読んでいる間だけなら、続篇の方が楽しめる。

結局、ボールの書きたかった未来のモザイクは、前作で尽くされており、その分、アイデアが章別に、割合整然とまとめられた、ストーリー主導の本書につながったと思われる。この正、続篇が、設定篇と展開篇になっているとすると、おそらく書かれるはずの第三部のバランスが、結構難しいはずだ。(俊)